

学校づくりワークショップ〈生徒・教職員編〉 News Letter ③

第3回 教職員ワークショップを開催しました！

今回のワークショップは、これまでのワークショップの集大成として「未来の糀谷中学校」のゾーニングについて話し合いました。どのグループも活発な意見交換が行われ、未来の糀谷中のヒントを沢山いただきました！

また、教育施設の学識経験者である東洋大学名誉教授の長澤悟先生にもご参加いただき、「探求的な学び」を生み出す学びの空間に関するお話と、グループワークの講評をしていただきました。

■実施日時：令和7年11月13日（水）
14：15～16：00

■場所：糀谷中学校 武道場

■プログラム

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 主催者あいさつ | 5. デザインゲーム |
| 2. 前回から今日までのふりかえり | 6. 発表 |
| 3. プチレクチャー | 7. まとめ |
| 4. おはなし | |



第3回テーマ

描いてみよう！新しい学校のゾーニング

デザインゲームの前に

長澤先生から「学校施設全体を学びの場」としてつくる、未来思考の学校についてお話をいただきました！



「教科学習を深め、探求的な学びを生み出す学びの空間 教科担任制の中学校の特徴を活かした学校づくり」

探求的な学びを生み出す学びの空間をつくるには、学校という場所の価値をあらためて考え直し、校舎全体を「学びの空間」として考えることが大切である。

昨今はデジタル技術が進み、知識はどこにいても手に入る時代である。だからこそ学校では、友達や先生など「人」と関わりながら、協力したり共感したりして一緒に成長する学びが重要となる。

未来思考の学校とは？

- ・学校全体が学びの場！
- ・これまでの学校、教室名にとられない

求められる学びの場とは？

- ・思い通りの環境・場を創り出せる
- ・場所を選べる
- ・シェアできる 等…



教科のためのスペース

多様な学びにつながる空間づくり

- ・教科の特性を活かした学習環境づくりができる教室まわり
- ・学校の中心にあるメディアセンター 等…



学校の中心にあるメディアセンター



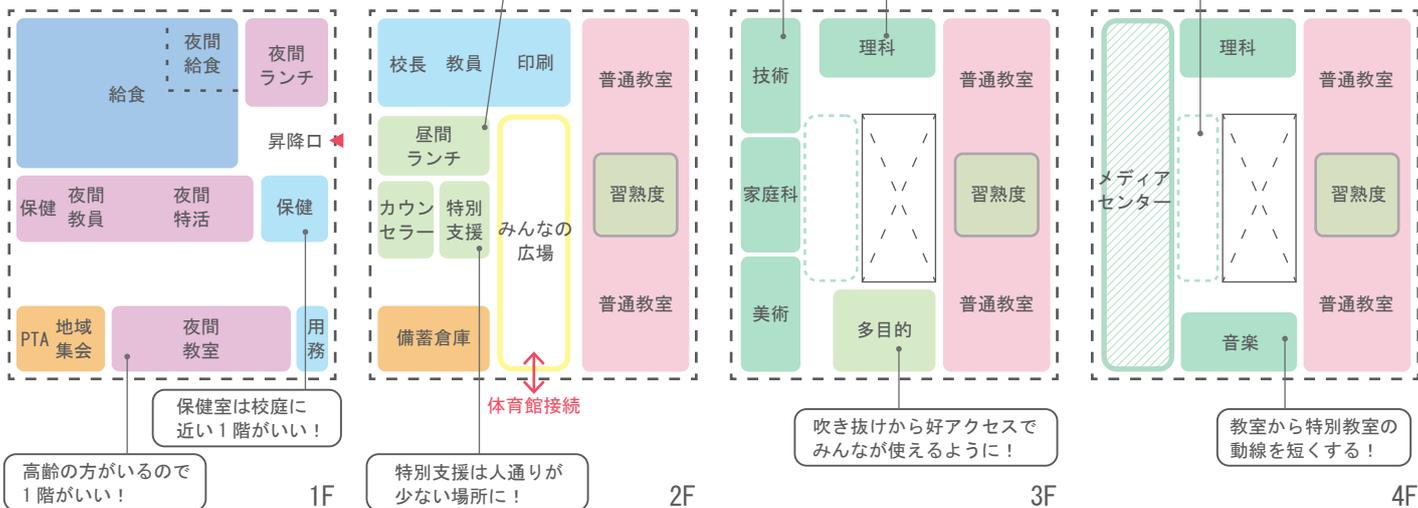
東洋大学名誉教授
長澤悟先生

グループワークの成果発表！

未来の穂谷中のヒントがたくさん！

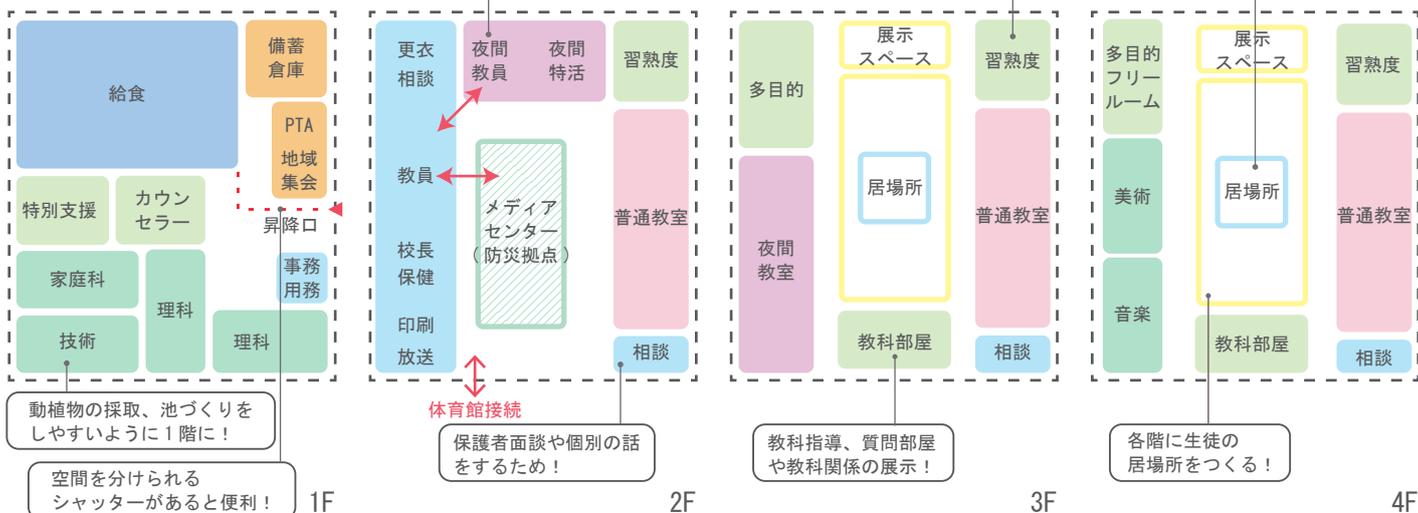
A グループ

- ・昼夜別のランチルームを設けて多用途の使い方を！
- ・校舎真ん中にお洒落な吹抜とメディアセンター



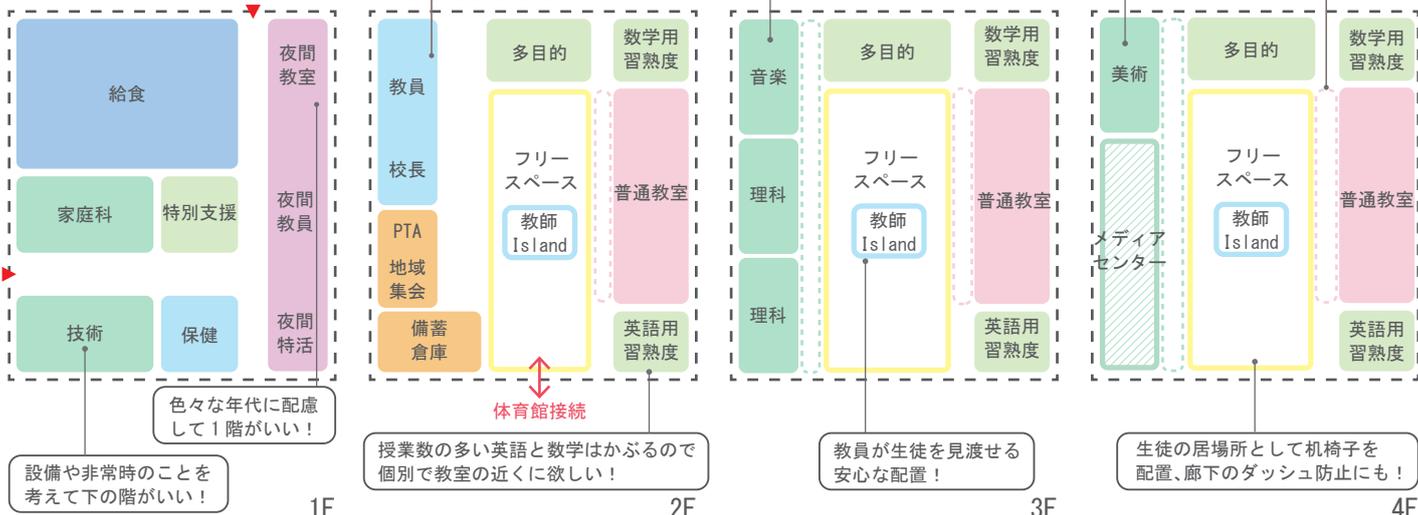
B グループ

- ・開くと区切るを使い分け、昼夜間交流を促す
- ・各フロアに教員と生徒の居場所を作る



C グループ

- ・フロアごとの多目的室で学年集会！
- ・教員と生徒の距離を近くする

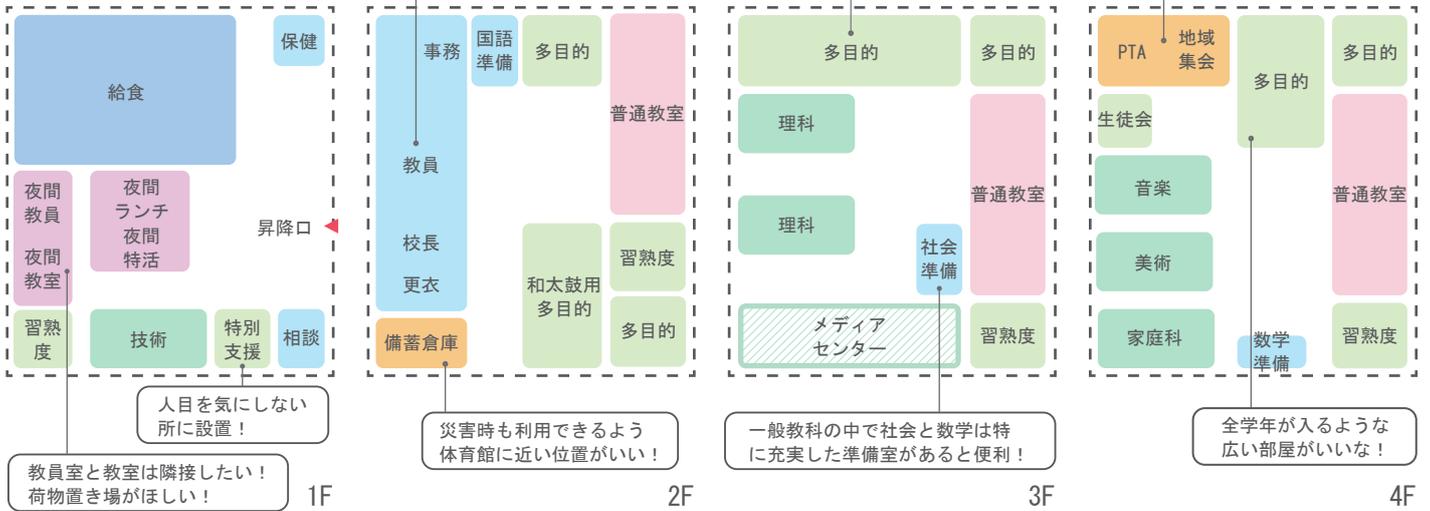


グループワークの成果発表！

未来の穂谷中のヒントがたくさん！

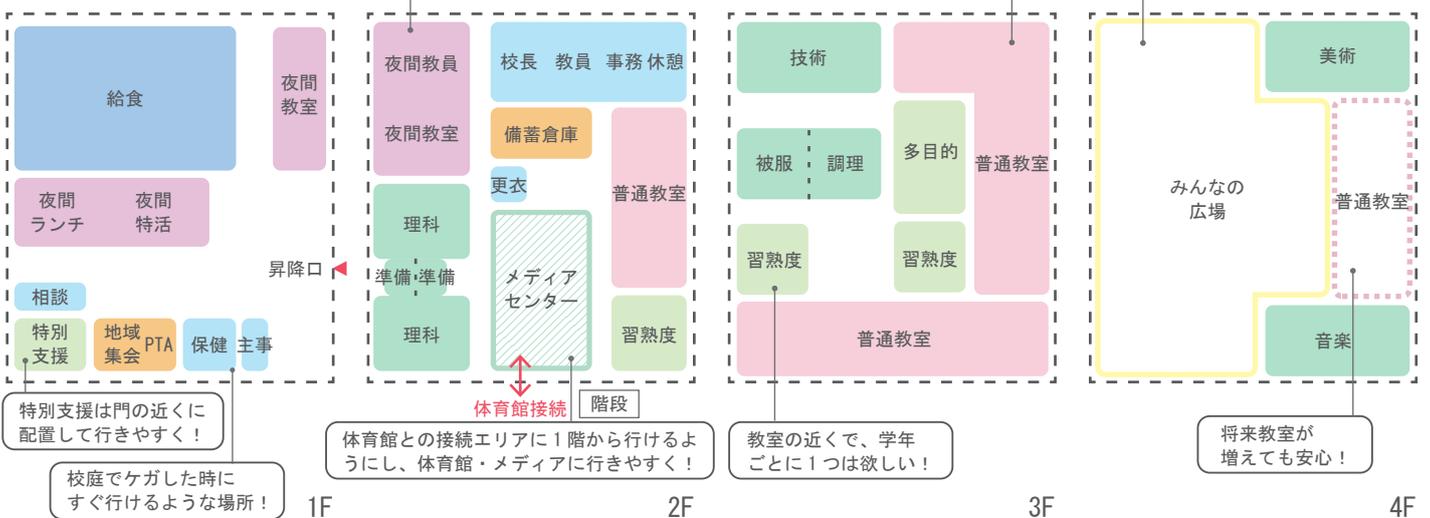
D グループ

- すべてのフロアにミニ教員室、多目的室、準備室を設ける



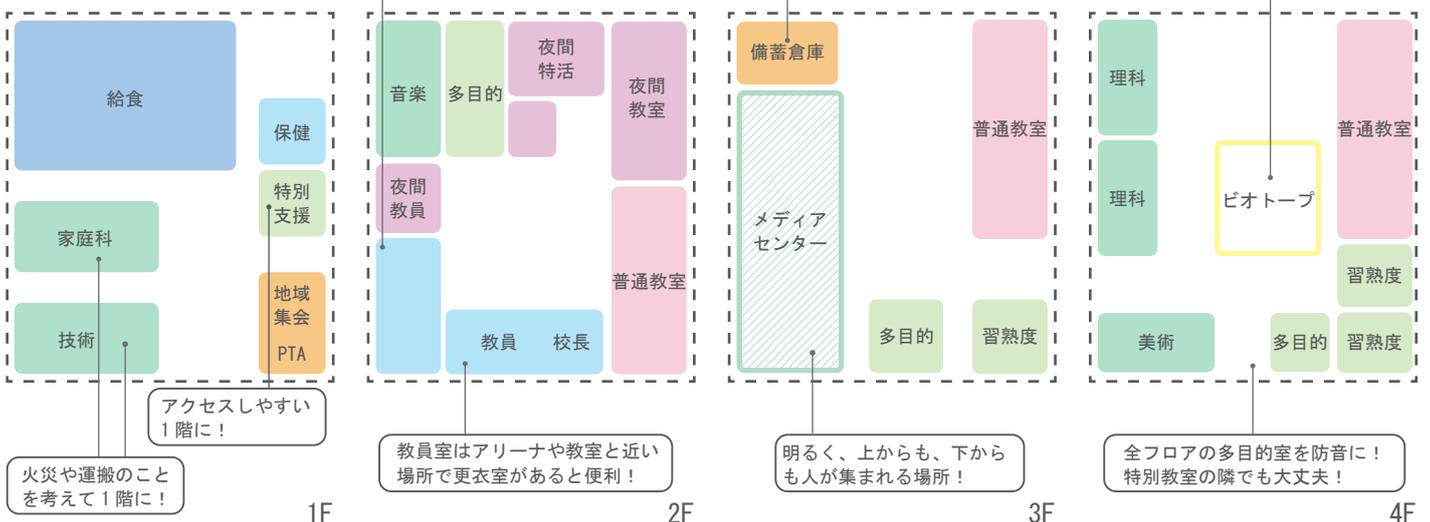
E グループ

- 特別教室を充実させる
- 昼夜問わず教師と生徒を近くに



F グループ

- 昼夜間の関わりを意識した配置
- 屋上庭園で緑あふれる校舎



ワークショップで見えてきた重要なポイント！

各グループの意見で多く挙がった内容は…

① 教員と生徒の

距離を近くしたい！

- ・各フロアに小さい教員室や教科の準備室があれば質問を受けたり、見守れる！
- ・作品の展示をすることで教員と生徒、生徒同士の交流を増やせる！

② 昼夜間の関わりを

意識した配置にしたい！

- ・昼夜間の教員室が近いと連携がとりやすく、交流もさかんになる！
- ・昼夜間は区切れる仕組みを有効活用できるといい！

③ 多用途で使える大小

いろんな部屋がほしい！

- ・セパレートできる部屋で生徒指導、保護者対応に！
- ・英語や国語の授業のための多目的室を各フロアに！
- ・フロアごとで学年集会ができる多目的室がほしい！

感想カードのまとめ！

参加いただいた先生方に「気づいたこと」「発見したこと」をお聞きしました！

現状との違い・悩み

今まで学年の階段を分けていましたが、生徒指導上であってもそれが必要なのか、広い階段なら特に問題ないとするか…考えさせられました

今の学校が狭苦しい場となっているので、明るく楽しめる場にしてほしい

教室の配置を学年ごとにしたほうが良いのかどうか…（生徒指導のことを考えると色々理想と食い違う点がでてくるので）

居場所に関して

自分が働く場所なので生徒と接しやすい場所、働きやすい空間が一番だと思いました

教員も生徒も動きやすく、居場所が確保できることが大切なのだと思います

今設置されていない生徒の更衣室や教員の休息の場を必要としていること。夜間とのバランスを考えていかないといけないことを感じた

配置に関して

各部屋の配置にはそれぞれ目的があり、その理由を話し合ったりしてどうしたらより良い学校が創れるのか一緒に考えることができ良かったです

正方形に近い校舎の配置は考えれば考えるほど夢を入れていける感じました

配置が難しいが、いろいろな案が出ていて面白かった

どこに重点をおくかでゾーニングが変わってくるのがわかりました

考え方

吹き抜けがあることで開放感が生まれてよいと思います

他のグループの発表を聞いて新たな発見がありました。ふきぬけ・ピオトープ…

お互いの職員でコミュニケーションを取りたいということを望んでいた

未来の学校のことを考えることは想像以上に楽しかったです

夜間の先生の考え方がよくわかった

様々な立場から、未来の学校を創るために知恵を出し合い、形にしていくこと

まとめ

各グループで糀谷中学校の未来につながる意見が多く聞かれました。教える主体である先生の視点からの意見は学校での生徒の学びにとって非常に重要だと思います。新しい学校が魅力的なものになるように、貴重な意見がプランに反映される様子を見守っていただければと思います。



東洋大学名誉教授
長澤悟先生

■設計ワークショップ運営チーム

大田区教育委員会 教育総務課施設担当：大森・井上
株式会社東畑建築事務所：高木・保科・山田・田中
まち楽房有限会社：加藤・榎原